



安全で安心できる 住みよいまちづくりを

置戸町長 井上 久男

新年、明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より町政の推進に格段のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、一昨年は開町100周年を迎え、町民が主体となった記念行事が数多く開催され、町民一人ひとりが輝きに満ちあふれた1年となりました。年が開け、平成28年は元日より晴天が続き、心穏やかな1年となることを誰もが感じていたことと思います。しかしながら、8月には台風が9年ぶりに北海道を直撃し、全道各地で甚大な被害が発生しました。尊い命を失われた方々に改めてご冥福をお祈り申し上げます。

本町においても、昭和50年に発生した災害に次ぐ大規模なものであり、関係機関や地域の皆さまのご協力により、人災は免れたものの、住宅への浸水被害や道路の損壊がいたるところで発生し、改めて自然の猛威を実感いたしました。人命を最優先に避難所を開設いたしました。経験不足と行政の力だけでは十分ではないことを痛感させられました。幸い地域住民の迅速な対応と協力により、誰一人命を落とすことがなかったことに安堵するとともに、日頃より協働のまちづくりを推進している自治会の皆さまに改めて感謝をする次第です。現在においても町内では、道路等の補修が完了していない箇所があり、ご不便をおかけしておりますが、全力で復旧作業を行っております

ので、ご理解を賜りたいと思います。

さて、昨年6月に町民皆様の温かいご支援を賜り、町政5期目のスタートを切ることができました。4期16年を振り返りますと、市町村合併や行政改革など財政的にも非常に厳しい時期でありましたが、町民の皆さまと知恵を絞りあいながら、ここまでまちづくりを進めることができました。現在、国においては、地方創生が声を潜め、東京中心の話題が絶えない毎日であります。本町においても、残念ながら人口減少に歯止めがかからない状況となっておりますが、置戸町人口ビジョンに掲げる2,300人の維持に向け、中長期的な視野でこの問題に向き合う必要があります。

そのような中、本年はオホーツク地域と東京都江東区との交流が本格化します。物流のみならず、人の流入につなげていくことでオホーツク圏が活性化し、本町の賑わいにつながればと期待をしております。

また、任期中には、第5次総合計画の仕上げと、第6次計画の策定に取り組まなければなりません。中期の展望を持つ一方で、スポーツセンターの改修や勝山温泉「ゆうゆ」の再開、特別養護老人ホームの改築など目の前の大きな課題がたくさんございます。初心に帰り町民みんなの笑顔がかがやくまちづくりに取り組んでまいります。

結びになりますが、町民の皆さまが健康で幸せ多い年でありますよう、心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。